

平成28年度第3回桑名市入札監視委員会議事録

日 時 平成29年3月16日（金） 13:30 ～ 15:00

場 所 桑名市役所5階中会議室

出席者 桑名市入札監視委員会委員（4名）

東川 薫（委員長）

伊藤由美子（副委員長）

佐藤 久善

藤田 素弘

事務局（6名）

和田 克正（契約監理課 課長）

種村 悟（〃 課長補佐兼検査指導係長）

松本 浩二（〃 課長補佐兼契約係長）

藤堂 真志（〃 契約係）

稲垣 吉文（上下水道部 企画総務課 課長）

大平 善英（〃 課長補佐兼総務係長）

工事担当課（9名）

佐藤 正弘（建築住宅課 課長）

高柳貴久蔵（〃 営繕係長）

眞柄 光作（〃 営繕係 主査）

水本 恭雄（〃 ）

栗原 繁憲（上下水道部 工務課 課長）

蛭川 裕司（〃 主幹）

出口 敏幸（土木課 課長）

山川 正史（〃 維持係 主査）

高田 憲吾（〃 建設係）

事 項

1 開 会

【事務局】

本日は、ご多忙の中、ご出席賜り、まことにありがとうございます。

定刻になりましたので、平成28年度第3回入札監視委員会を開催させていただきます。

本日、赤木委員から所用で欠席する旨のご連絡をいただいておりますことをご報告させていただきます。最初に、契約監理課長からご挨拶を申し上げます。

【事務局】

失礼します。

皆さん、どうも、改めましてこんにちは。

契約監理課の和田です。

委員の皆様には、年度末を控えまして大変忙しい中、今日の入札監視委員会に集まっていただきまして、ほんとうにありがとうございます。

本来であれば、私どもの部長がこちらへ参りまして挨拶をするところなんですが、本日、部長が急に用件が入りまして、部長は欠席ということでございます。部長のほうからは、ほんとうに申しわけございません、皆さんによりしく伝えてくださいというふうに言われておりますので、報告させていただきます。

さて、平成28年度、先ほど司会のほうから話がありましたけど、本日、入札監視委員会は3回目ということで、実質本日が最後になろうかなと思っております。過去2回の会議のときには皆さんのお立場からいろいろご意見をいただきまして、私ども、平成28年度、特に大きな桑名市として問題もなく、契約事務、今まさに28年度が終わろうとしています。これも改めて皆さんのおかげだと思っております。重ねてお礼を申し上げます。

世間に目を通しますと、契約に関しましては、毎年のことですけど、国の機関をはじめ、私ども地方公共団体も、やはり不祥事というのは後を絶っておりません。時にはその関係者が逮捕されるという、そういう事件もほんとうに起きております。これからも皆様には、ほんとうに高い見地から、また広い視野で、私どもにご提議をいただきまして、私ども、それによってさらなる契約の改革に努めてまいりたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

本日は、事前にご抽出いただきました5つの案件のご審議と、それと、先月の会の席上、皆様から、各業者さんが実際どういうソフトを使って、どういう予定価格を出しているんだというご提案というか、調査依頼もいただいておりますので、私どもの事務局のほうから後ほど説明をさせていただきますので、あわせてよろしくお願いをいたします。

それでは、本日、どうぞ、皆さん、よろしくお願いいたします。

私のほうからは以上でございます。失礼をいたします。

【事務局】

本日の議事につきましては、お手元の事項書に基づき進めさせていただきますので、ご審議のほど、よろしくお願いします。

なお、本委員会は、入札監視委員会条例第5条第2項の規定を満たし、有効に成立していますことをご報告申し上げます。

それでは、開会に先立ちまして、東川委員長からご挨拶を頂戴したいと存じますので、よろしくお願いいたします。

【委員長】

皆さん、年度末のお忙しいところ、お集まりいただき、ありがとうございます。

私、風邪を引いて、すみません、お聞き苦しいところがあると思います。

先ほども挨拶していただいたように、例えば、国有地の払い下げの問題ですとか、豊洲市場の問題ですとかを挙げてみても、非常に公金の使い方ということについて一般の方々の関心が非常に高まっているのではないかというふうに思いますので、今日もしっかりやっていきたいと思います。ご協力をよろしくお願いします。

【事務局】

ありがとうございました。

ここからは、桑名市入札監視委員会条例第5条第1項の規定に基づきまして、東川委員長に議事進行をいただきたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

【委員長】

それでは、事項書に従って議事を進めてまいりますので、よろしくお願いします。

今日、傍聴の希望者がおありになるということですので、本日の会議は一般公開としております。これ以降の審議につきまして、傍聴を希望される方がいらっしゃいますが、許可したいと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

(異議なし)

【委員長】

ありがとうございます。それでは、傍聴人の方の入場のため、しばらくお待ちください。

(傍聴人 入室)

【委員長】

本委員会での写真、映像等につきましては、頭出し部分に限らせていただきますので、よろしくお願いいたします。

2 議 事

(1) 入札及び契約手続きの運用状況について

【委員長】

それでは、早速審議に入りたいと思います。議事の1、入札及び契約手続きの運用状況につきまして、事務局のほうから説明をお願いします。

【事務局】

改めまして、本日はよろしくお願いいたします。事務局の松本です。座って失礼いたします。

それでは、指名停止の状況についての説明をさせていただきます。

今回の審議対象期間である平成28年9月から12月の4カ月の間に指名停止措置を講じた件数は、資料のほうは1ページ、2ページをごらんいただきますでしょうか、ごらんのとおり10件となっております。このうち、本市が独自に指名停止を講じた2件につきまして説明をさせていただきます。

資料の2ページをお願いいたします。

まず、表の一番左をごらんください。

桑名市指定ごみ袋可燃物用(大)(2)の納品について、中国の生産工場で計画的な労働力の確保ができなかったため、手作業である袋の折り畳み工程に遅れが生じ、契約で定めた納期の日に納品を行うことができませんでした。これは桑名市請負工事入札参加者指名停止基準別表第2、7号の不正または不誠実な行為に該当いたしますので、契約締結者の株式会社日比研究所に対しまして1カ月の指名停止措置を講じました。

続きまして、表の一番右をごらんください。

桑名市指定ごみ袋プラスチックごみ用(2)の納品について、納品時の検査におきまして、ごみ袋の厚みが市が提示している仕様を満たしていないことが判明し、契約で定めた納期までに納品を行うことができませんでした。こちらのほうは、桑名市請負工事入札参加者指名停止基準別表第2、第7号の不正または不誠実な行為に該当いたしますが、契約締結者の株式会社日比研究所は、指名停止期間、先ほどの指名停止になりますが、その指名停止の期間満了後1年を経過するまでに措置要件に該当したということで、桑名市の請負工事入札参加者指名停止基準第6条2項1号に基づき、指名停止期間が加重となりまして、2カ月の指名停止措置を講じました。

他の8件につきましては、三重県が実施いたしました指名停止に合わせまして、本市でも同等の措置を講じたものです。

次に、談合情報の状況でございますが、対象期間内において寄せられた情報はございませんでした。

以上となります。

【委員長】

それでは、ただいまのご報告につきまして、ご質問、ご意見等がございましたら、よろしくお願いします。

【委員】

(特になし)

(2) 抽出事案の審議について

【委員長】

それでは、続きまして議事の(2)ですが、抽出事案の審議について、に移る前に前回の監視委員会で質疑のありました入札参加者が基準価格、最低制限価格の計算に用いている積算システムにつきまして、事務局より説明をお願いします。

積算システムについて

【事務局】

それでは、以前に質問していただきました積算システムについての説明をさせていただきます。

業者さんが使っております積算システムとは、積算ソフトや最低制限価格ソフトとも言われておる設計上の内容から最低制限価格を算出するシステムとなっています。システムには予定価格や処分費などを入力することによって自動的に最低制限価格が算出される仕組みになっております。簡単に積算できることを前提としてつくられておりますが、内容、工事の場合、状況などによって特殊な計算をシステムの利用者が自身で判断し、手動で操作を行い、計算をする必要があるため、結果の精度は積算知識量に左右されます。

このようにして出された数字は、端数が千円止めの場合、大体2パターンから4パターン出ることとなりまして、それぞれこれぐらいの確立でありますというように可能性の表記がなされますので、それを計算された方が選びまして、それを入札の数字に利用されるということです。

ですので、同じようなやり方をしても、業者さんの判断によっては違う数字が出てくることもありますし、難しい計算を要求する工事の場合は、あまりこういうソフトが役に立たないこともあるようです。

なお、土木のほうでは非常に使われておったんですが、建築については、ほぼこういったソフトはないということを伺っております。

以上となります。

【委員長】

ありがとうございました。

それでは、ただいまのご説明につきまして、ご質問、ご意見がございましたら、よろしくお願いします。いかがでしょうか。

これは、例えば、土木と建築とか、種類によっての何か違いとか、ありますか。

【事務局】

基本的に、土木の計算には役立つようなんですが、建築にはあまり使えないというか、そもそもそういったよいシステムがないというふうにも聞いております。土木はわりと計算が単純なので、こういうシステムを、業者さんが情報を集めまして、市ごととか県ごとにシステムを組むようなのですが、建築のほうはそういうのがうまくできないらしく、そのせいで土木関係は、最低制限、結構下に並ぶんです

が、建築になると、わりと上下に散らばるという傾向が見られます。

【委員長】

ほかはいかがでしょう。

【委員】

このソフトをつくっている会社というのは何者かあるんですか。それともわりと限られた会社で、例えば、業者さんが積算ソフトを何か使おうと思うと、ほぼこのものだよみたいな形で大体限定されたものになるのか、いかがでしょう。

【事務局】

直接業者さんにお伺いすることはできなかったのですが、インターネットとかで情報を調べたり、直接メーカーさんにも質問したりなどして確認はしておったんですけど、メーカー自体は、調べた限りでは、最低でも、インターネットに調べて出てくるところでは5者以上はあるようですし、金額も、大体金額はお問い合わせくださいみたいになっておりまして、まちまちなものですから、それこそ何十万、あるいは年間百万単位でかかるというのも見かけます。

それで、やはりこの業者がいいとかいうのは、そういう業者間で情報交換をしているとかいうのはあるようなんですが、三重県で特にここがというのは、そこまではあいにくと調べはつきませんでした。

【委員】

ありがとうございました。

【委員長】

ほかはいかがですか。

どうもありがとうございました。しばしば積算ソフトについては話題になってきたので、今回、調べていただいて少しわかってきましたけど、なかなか具体的なイメージができませんので、またこれからも、ぜひお願いするかもしれませんので、よろしくお願いします。

それでは、続きまして、議事の（2）です。抽出事案の審議についての項目に移りたいと思います。

審議に先立ちまして、抽出案件5件について説明を得るため、入札監視委員会条例第6条の規定に基づき関係者の出席を求めたいと思いますが、いかがでしょう。

【委員】

（特になし）

【委員長】

それでは、関係者の出席をお願いします。

（工事担当課 入室）

【委員長】

それでは、審議に当たりまして、今回の5件の抽出理由につきまして伊藤委員のほうから説明をお願いします。

【委員】

それでは、説明させていただきます。

5件選定いたしました。

まず最初の第1番、高砂町改良住宅等、こちらの工事に関しまして、抽出理由としましては、まずは、落札率が高いということ、それから、応札業者の中で、数が少し少ないということで選びました。

事案の2件目、大山田東小学校校舎の増築工事です。これは、発注金額が億を超える高額なものであるため、選びました。

3番目、中央通幹線桑名本郷枝線污水管路施設工事です。こちらは、落札率が高いということと、応

札業者の中で失格者が多かったので選びました。

4番、星見ヶ丘防災拠点施設市道拡幅工事、こちらも、落札率が高いというところと、応札業者の中の失格が多いということで選びました。

最後、三崎跨線橋橋梁点検業務委託、こちらについては、落札率が高いことと、応札業者が少ないということで選定いたしました。

以上です。

【委員長】

ありがとうございます。

それでは、第1案件です。高砂町改良住宅、並びに第2築地町改良住宅屋根外壁改修工事について、発注担当課のほうから工事概要の説明をしていただき、その後、事務局から発注公告の内容と入札経過についての説明をお願いいたします。

抽出事案 1 高砂町改良住宅（9号～14号）、 第2築地町改良住宅（1号～4号）屋根外壁改修工事

【担当課】

建築住宅課の佐藤です。よろしくお願いします。座って失礼します。

お手元の資料、4ページをご覧ください。

工事名、高砂町改良住宅9号から14号、第2築地町改良住宅1から4号の屋根外壁改修工事です。予算額につきましては、2,734万7,004円に対し、設計金額は2,469万4,200円でございます。工期につきましては、契約日から平成29年1月13日までとしております。

概要につきましては、両住宅ともプレキャストコンクリート造2階建ての住宅で、延べ面積、1戸当たり約80平米の住宅5棟10戸の改修を行いました。この事業につきましては、国からの交付金をいただきながら行っており、桑名市の公営住宅等長寿命化計画に基づき、順次改修を行っている工事でございます。この工事におきまして、公営住宅の耐久性の向上や躯体の経年劣化の軽減等を図るための改善事業でやっております。なお、この改良住宅につきましては、平成15年度から順次大規模改修工事を進めてきております。

工事内容としましては、外壁の塗りかえ、屋根のふきかえ、バルコニー防水改修等を行っております。内容につきましては、外壁の塗りかえにつきましては、1戸当たり約136平方メートルで、防水型の塗装を行っております。屋根のふきかえにつきましては、1戸当たり約45平米で、彩色スレート葺きにて改修を行っております。バルコニーの防水につきましては、1戸当たり約48平米のウレタン塗膜防水を行っております。そのほかといたしましては、といの取りかえ、外壁の欠損部の補修を行っております。

それで、資料を1枚めくっていただきますと、資料の5ページ、こちらにつきましては、工事箇所の位置図が示してあります。

6ページ以降なんですけれども、高砂町の住宅の着工前、着工後の写真ということで、見ていただくとわかると思うんですけれども、6ページにつきましては着工前の外壁の状況、めくっていただきますと、7ページでは外壁の塗りかえ後の状況が出ております。8ページにつきましては、屋根のふきかえの部分で、着工前の状況です。これが、めくっていただきますと、9ページ、屋根のふきかえの整備済みの状況が示してあります。10ページにつきましてはバルコニーの防水工事の着工前の状況で、1枚めくっていただきますと、11ページにつきましては施工後の状況でございます。

以上で工事の概要の説明を終わります。

【事務局】

それでは、続きまして、発注公告及び入札経過について事務局から説明させていただきます。資料の12ページをお願いいたします。

入札方法は、事後審査型条件付一般競争入札です。入札参加資格要件につきましては、建築工事業の許可業者であること、所在条件は市内としております。経審点数につきましては550点以上としました。発注業種の完成工事高が予定価格の2分の1以上であることを求めており、平成18年度以降、官公庁が発注した案件で、建築一式工事、受注形態、元請単独の施工実績を有すること、技術者要件として、2級建築士、または2級建築施工管理技士（建築）以上の主任技術者と現場代理人の配置を求めております。以上の要件をもって公告をいたしました。

続きまして、入札の経過及び結果についてです。13ページをお願いいたします。

平成28年9月7日に入札を行いましたところ、1者から応札があり、開札の結果、最低制限価格以上、予定価格以内で応札した三重同愛建設協同組合を落札候補者としました。その後、事後審査を行った結果、適格であったため、当該事業者を落札者に決定し、税抜き2,172万円で契約を締結いたしました。

以上となります。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

【委員長】

ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等がございましたら、よろしくお願いしたいと思います。

【委員】

やはり、一番気になりましたのは、応札業者が1者しかなかったということなんですけれども、その辺の理由については市としてはどのようにお考えか、お聞かせください。

【事務局】

発注につきましては特別な条件をつけていたわけではないので、発注公告上の問題は考えられないところなのですが、発注した時期がちょうど民間の工事などが出てくるところではあったので、業者さんが敬遠されたのではないかというふうに、想定でしかないんですが、そのように考えております。

【委員】

ちなみに、応札できるであろう業者数というのは何者ぐらいあったんですか。

【事務局】

うちのほうで調べた限りでは27者ございます。

【委員】

その27者が応札できる状況の中で1者しかないというのは非常に低調で寂しいなと、そういうふうに思いました。

以上です。

【委員長】

ほかはいかがでしょうか。

【事務局】

失礼します。

これは、時期的な問題かも知れないんですけど、一応、8月下旬ぐらいに発注を出しているんですけど、まだまだ工事が続くということでございますので、また時期的な面も、もう一度、発注時期が見直せるかどうか、また検討して今後に備えたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【委員長】

全く、私、素人の思いつきというか、具体的なアイデアはないので無責任な発言なんですけど、応じる業者が1つしかないときの対応なんですよ。何か前もそういうことがあったような気がするんですけど、そういうときの何か工夫というのは、見直すではないんですけど、その場はそれでもう入札してしまうのか、そういう工夫というのは何か考えられないですかね。

【事務局】

1者に決まってからということでしょうか。

【委員長】

というか、応じるところが1者しかないという。

【事務局】

要件を満たしていなければ落ちるだけなんですというか、失格になるだけなんです、要件を満たしてしまっていると、それがどんな状況であれ、とりあえずは落札候補であり、その後の審査によって落札決定とせざるを得ないというところがございますので、今のところの決まりというか、県下でもほぼそうだと思いますが、そういうのでは対応が、1者だけだからという理由では、しづらいなとは思いますが。1者でも、金額が低かったり高かったりというのも業者さん次第なところがありますので、必ずしも悪いことばかりでもないとは思いますが、そのあたりは。

【委員長】

ほかはいかがでしょうか。

それでは、この案件につきましては特に問題はないと思いますけれども、繰り返しになりますが、ほかの自治体での取り組みなどもぜひ情報収集していただいて、何かいい方法があれば、また、今すぐどうこうという話ではないんですが、そういう研究をしていただければと思います。

抽出事案 2 大山田東小学校校舎増築（建築）工事

【委員長】

それでは、次に、第2案件です。大山田東小学校校舎増築（建築）工事について発注担当課のほうから工事概要の説明をしていただき、その後、事務局から入札経過についての説明をお願いいたします。

【担当課】

引き続きまして、建築住宅課のほうで、大山田東小学校校舎増築（建築）工事の工事概要の説明をさせていただきます。資料の14ページをごらんください。

工事の目的としましては、住宅団地の開発により児童数の増加が続く大山田東小学校の教室不足に対応するため、平成28年3月に閉園しました幼稚園舎を解体し、その敷地に校舎の増築を図るものです。今回の内容につきましては、建築工事のみとさせてもらっております。なお、建築工事以外にも、機械の設備工事、あと電気設備工事、さらに工事の監理業務委託と別途発注いたします。全体工事としましては、平成30年2月末に完了し、30年4月に供用開始を予定しております。予算額につきましては7億7,800万円、これの中には、建築工事以外にも電気設備とか機械設備等の予算も含まれております。設計額につきましては4億507万9,920円、工期につきましては平成30年2月28日までを予定しております。

工事概要としましては、構造は鉄筋コンクリート造3階建て、直接基礎になっております。今回増築する部分の規模は、建築面積で691平米、延べ床面積で1,748平米になっております。

工事内容としまして、建築工事としましては、校舎を増築し、教室数として、普通教室9教室、特別支援教室2教室を増やします。その他外構工事としまして、舗装とかスロープ及び階段の設置、植栽の整備等を行います。また、既設幼稚園舎の解体工事も行います。

それでは、資料の、1枚めくっていただきまして、15ページをごらんください。こちらにつきましては、大山田東小学校の地図が示してあります。

続きまして、16ページをごらんいただきますと増築校舎の配置図ということで、右側の真ん中あたりに太線で囲まれている部分なんですけれども、この部分に幼稚園舎がありまして、この部分に増築校舎を整備いたします。

1枚めくっていただきますと、増築校舎の1階の平面図になっております。1階につきましては、普通教室1教室、特別支援教室2部屋、職員室1室となっております。次のページを見ていただきますと、18ページにつきましては増築校舎の2階と3階の平面図になっております。各階にそれぞれ普通教室4教室を整備いたします。以上で全体で普通教室9教室、特別支援教室が2教室が増えるというような

工事となっております。

工事概要については以上です。

【事務局】

続きまして、発注公告及び入札経過について説明させていただきます。資料の19ページをお願いいたします。

入札方法は、事後審査型条件付一般競争入札の低入札価格調査制度試行案件ですので、まず最初に、低入札についての説明をさせていただこうと思います。

お手元に注意事項と書かれた資料を後で机の上に配付させていただいたと思うんですが、ごらんいただけますでしょうか。この注意事項という書類は、19ページにごらんいただいています資格要件とともに公告として出させていただいたものとなります。

本来の入札では、予定価格以下で最低制限価格以上の金額しか落札はできませんが、低入札価格調査案件においては、最低制限価格を調査基準価格として設定し、入札価格がそれを下回っても、それより下の失格基準価格以上であれば、その入札価格で適正な工事が行われるかという調査を行い、その結果に基づいて落札を決定できます。なお、失格基準価格につきましては、定められた算定式に基づき算出されており、予定価格の70から75%となります。

お手元の資料の下のほうに、見積内訳書の判断基準と太字で書いてあるところが下から5行目ぐらいの表にございますが、この項目をごらんください。入札時に提出された工事費内訳書の内容とこの表に基づいて算出した費目ごとの金額を比較し、入札した工事費の内訳が1つでもこの判断基準の価格を下回っていた場合は失格となると決められております。

それでは、公告の説明に戻らせていただきます。19ページのほうをもう一度ごらんください。

入札参加資格要件につきましては建築工事業の特定建設業の許可業者であること、所在条件は市内業者及び準市内業者とし、経審点数につきましては、市内業者は710点以上、準市内業者は900点以上としました。発注業種の完成工事高が予定価格の2分の1以上であることを求めています。また、同種工事施工実績として、平成18年度以降、官公庁が発注した案件で、建築一式工事、受注形態、元請単独の施工実績があること、技術者要件として、建設業法第26条に定める監理技術者（建築）と現場代理人の配置を、ただし、低入札価格で契約を締結する場合に限り、現場代理人及び監理技術者のほかに、監理技術者に求める資格を有する専任の担当技術者として1名を追加配置することを求めています。以上の要件をもって公告をいたしました。

続きまして、入札の経過及び結果についてです。資料の20ページをお願いいたします。

平成28年12月14日に入札を行いましたところ、4者から応札があり、開札の結果、最も低い価格で応札した株式会社宮崎工務店について、その価格が調査基準価格を下回っていたため見積内訳書を確認したところ、判断基準を満たしていなかったため失格とし、次に低い価格で応札しました中日本建設株式会社についても、その価格は調査基準価格を下回っていたため見積内訳書を確認し、それが判断基準を満たしていたため、引き続き低入札価格調査及び意見聴取を実施いたしました。調査及び聴取の結果、契約の内容に適合した履行が可能と判断したことから、中日本建設株式会社を落札者に決定し、税抜き3億2,890万円で契約を締結いたしました。

以上となります。ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

【委員長】

それでは、ただいまの説明につきまして、ご意見等がありましたら、よろしくお願いします。

【委員】

今回のように、低入札価格調査制度の試行案件に選ぶというのは、どういう基準で選んでみえるんです。契約額ですか。

【事務局】

桑名市の場合ですと、要綱で基本的に1億以上というのは決められておりますが、それ以下の場合については、内容に応じて担当課と契約監理課のほうで話し合いなどを行いまして採用する場合がござい

ます。この場合は4億以上の金額の予定額でしたので、低入札というのは最初から決まっておりました。

【委員長】

1億以上の場合は自動的に全て該当するということですね。

ほかにはいかがですか。

【委 員】

要件として、監理技術者を1名、追加配置するというのがあるんですけど、最初から低入札価格になるかどうか、わからないんですよね。

【事務局】

はい。

【委 員】

業者というのは、それも見込んで、最初から技術者を用意しておくことになるんですかね、この制度。

【事務局】

業者さんは、先ほどのようなソフトが使えるわけじゃないと思うのですが、最低制限価格を自分のところで計算いたしまして、それより上に出そうか、下に出そうかというところは考えられるところだと思うのですが、もし、低入札案件になってでも、安くてもうちはとりにいきたいと考えるところであれば、前もってこういった技術者さんを準備しておかれると思いますし、ぎりぎりで狙われていたところが低入までは行きたくないと思われて、ぎりぎりにしたつもりが、うっかり下に行ってしまうと低になった場合は、業者さんによっては、事後の審査のところで人が足りないので無理ですといって断られたりとかいうこともあると思います。

【委 員】

この制度が、今回は有効に働いたような気もしますが、調査基準価格というのを最初から下げることができれば、この方法でなくてもいいのかなというもふと思ったんですが、この方法のほうがより業者の意向で下げられるという方法になっているんですかね。

【事務局】

この調査基準価格というのは最低制限価格と同一になっておりますが、この最低制限価格、本来はこれ以上安くなると、業者さんが本来の工事をするには安過ぎるのではないかという基準価格として考えているラインですので、金額が1億以上の工事などにつきましては、それでも業者さんが、例えば手持ちの資材がありますとか、何か業者さんの独特のやり方でできることがあれば、そのような、より安くてもできるのではないかという可能性もございますので、そういうところを聞き取ることによって、やれるように入札・開札を認めるようにするということができるための制度ですので、とりあえず上のラインにつきましては最低制限価格と同じというふうにしております。

【委 員】

そうすると、今回の場合は、どんな業者の特記事項があって安くできたというご判断で出したんですか。

【事務局】

今回の場合ですと、4者のうち2者が最低制限価格を割り込んでおりまして、結果的に、制度がうまくいったというか、制度をうまく利用していただいて落札していただいたんですが、もし、これ、2者目のところも何らかの要件で失格になりましたら、今度は本来の調査価格より上のところで、3番目の業者さんが、特にそういった特別な審査なく、ふだんどおりの事後審査だけで落札決定まで行くことになると思います。

【委 員】

だから、最低基準価格はそれ以下になるとしっかりした工事ができなくなるおそれがあるということ、業者の何らかの得意分野であったり何かの特記事項があって、安くしてもいいという判断をされるわけですね。

【事務局】

はい。

【委員】

それは、今回はどういう判断だったのか。

【事務局】

すみません、それは最初のほうの説明のところで省略してしまっただけです。

まず最初に入札した時点で見積内訳書の内訳を見て、それをまず第一に判断するんですけど、それで、内訳書の内容がオーケーでしたら、その後は事後審査のための書類がございまして、それを出していただき、かつ、業者さんに聞き取りのヒアリングを行います。ヒアリングは担当課と契約のほうで一緒に行うんですが、調査内容としまして、この価格で入札した理由とか、下請の計画書及び施工体系図とか、契約対象工事付近における手持ち工事があるかないかとか、資材購入先との関係についてなど、十二、三項目において確認をとった上で判断することとなっております。

【委員】

安くなるというのはいいとは思いますが。

【委員長】

ほかにはいかがですか。

では、この案件につきましては特に問題ないいたしますけれども、予定よりも低い価格でやるわけですから、その後の質の担保というんですかね、それを、しっかりされているとは思いますが、定期的なチェックのほうはよろしくお願ひしたいと思います。

抽出事案 3 中央通幹線桑名本郷枝線污水管路施設工事（推進工）

【委員長】

では、続いて、第3案件です。中央通幹線桑名本郷枝線污水管路施設工事（推進工）につきまして、発注担当課のほうから工事概要を説明していただき、その後、事務局から発注公告の流れと入札経過についてのご説明をお願いいたします。

【担当課】

上下水道部工務課の蛭川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

資料の21ページの工事概要書（3）をごらんください。

工事名は中央通幹線桑名本郷枝線污水管路施設工事（推進工）、設計額は2,631万7,440円、工事期間は平成28年9月26日から平成29年2月29日までとしております。施工場所につきましては、桑名市大字桑名地内でございます。

22ページの位置図をごらんください。本工事は、三崎跨線橋下の軌道敷きの西側での施工となっております。

工事の概要につきましては、污水管路敷設工事を推進工及び開削工法にて行い、桑名駅西土地区画整理事業地の污水整備を行うものでございます。

具体的な工事内容としましては、推進工法による污水管敷設工として、φ250と450で22.65メートル、開削工法による污水管敷設工φ150を1.4メートル、組立マンホール工2号を2箇所、更生立抗工φ1,500を1箇所、φ2,000を1箇所、地盤改良工一式、舗装復旧などの付帯工として一式を上げております。入札の条件につきましては、推進工という特殊工法がありますことから、技術、経験等を有することが必要でありまして、小口径推進工法、高耐荷力推進方式の施工実績を有する業者を設定いたしました。

工事概要につきましては以上でございます。

【事務局】

引き続きまして、本件の発注、入札につきまして説明をさせていただきます。資料のほう、29ページと30ページになります。

本件、平成28年8月31日に事後審査型一般競争入札にて発注を行いました。資格要件としては、建設業許可として土木工事業です。所在地としては市内です。経審点数、市内で510点以上とあります。業種の完成工事高は、発注業種の2年または3年平均の完成工事高が予定価格税抜きの2分の1以上とし、同種工事実績が平成18年度以降、官公庁の発注した小口径推進工法、高耐荷力推進方式の実績の元請単独としてあります。技術者要件は、現場代理人、監理技術者の兼務可、主任技術者が2級土木施工管理技士又は2級建設機械施工技士以上としてあります。

そのような条件で発注を行い、資料は30ページになりますが、平成28年9月13日に開札を実施し、応札は5者ありましたが、最低制限価格の関係で4者が失格になり、最低制限価格以上で予定価格の範囲内で低い応札であった株式会社伊藤水道建設を落札候補とし、その後、審査の結果、適格であったために、税抜き2,436万円で契約を締結しております。

以上です。

【委員長】

ありがとうございました。

それでは、今の説明につきまして、ご質問、ご意見等がございましたら、よろしくお願いいたします。

【委員】

これに関しては、入札経過表を拝見しまして、5者応札しながら、そのうちの4者が全てあまり差のない金額のところで最低制限価格を下回って失格されてしまったという中で、いわゆる予定価格にほぼ近い1者だけが残ったという、何か、すみません、素人考えなものですから、こんなことって普通に、みんながばらばらに応札したときにこういうことが起こり得るのかなと。何か非常に不自然さを感じたものですから選んだんですけれども、手続的には問題ないのかもしれませんが、そういうことで何か。

【担当課】

工務課の栗原です。

今回の場合、推進工法ということでトンネル工事ですもので、特殊な要因がありまして見積もりの価格を多く設計に取り入れています。そのところで公表されておる単価ではないものですから、こういう1,000円差というのが生じておると思われます。

残った1者が予定価格に近いところということで、これにつきましては、多分、現場等を見ながら、一番高い業者さんは、もしもこの値段でとればということで、最低価格の方が失格になったときはという感じで多分入れられたんだと思うんですけど、こういうことはたまに、高価格でとればとるけれども、頑張っただけではこの現場はわりに合わないかなと思われる業者さんもあるかと思います。

以上です。

【委員】

次の案件もよく似た状態なんですけれども、最低制限価格、これ以上安ければ工事の品質が担保できないだろうという理由があってその価格を決められておるんだと思うんですが、私ら素人が考えるには、4,000円、最低制限価格を下回っておるんですよね、今回の場合。4,000円下回ったことによって450万ぐらい高いところに行ってしまうという形、この結果だけ見ると、4,000円ぐらいだったら何とかしたらどうやと素人目には思うですし、たったそれだけのことで450万、市の税金が使われるかという話になるのかなというところもありますので、最低制限価格を決めるときには、それが条件ですから、それはやむを得んと思うんですけれども、何か今の、後で配られました最低制限価格の端数の処理をどうするかというのが次に説明があるようなんですけれども、その辺のところ、結果を見ると、何か市民の素人の感覚としては、えっ、たった4,000円で400万も高いのということになるのかなという気がしますので、最低制限価格をお決めになる段階で、やはりこのものがかちつとしたもので、この価格はこうこうこうで、これであるから、これ以下を使うんだったらまともな工事にはなりませんから絶対に譲れません線ですよというものをきちっと明確にしておかないと、何か市民から説明を求められたときにぐだぐだとなったのではいけないのかなという気もしますので、やはりお決めになるとき

にかなり慎重に決めていただく必要があるのかなという感じを、感想で申しわけないんですけど、そういう気がいたしました。

【事務局】

今、ちょうど置いてあった資料も先に見ていただいたかもしれないんですけど、実は29年度から、最低制限価格の端数処理につきましての変更をこちらのほうで検討して実施することとなりまして、それで、今までは端数は千円でとめておりましたが、それを万円にするということを考えております。

これにつきましては、千円止めのメリット、デメリットはそこに配らせていただきました最低制限価格の端数処理につきましてという資料のほうにございますが、千円止め、万円止めにはそれぞれメリット、デメリットがございます。例えば千円止めですと、今回のような最低制限価格をわずかに割り込んでしまって、それによってすごく高い業者さんがとっていく可能性が生じると、そういうことがあると。あとは千円止めでやっているところが県内では桑名市と名張市ぐらいしかないというのがございます。

それと、万円止めについては、メリットとしては、もし、今回の場合、万円止めだった場合ですと、5者あるうちの3者が最低制限価格の1,981万円で並ぶことになります、それによってこういった落札が高くなるのも防げますし、あと、今回のでは出てきていませんが、例えば、1番の業者さんがいなかった場合は、そもそも落ちないということもございます。そういったのも回避できることがあるという、今まで現にやはり落ちないとか、高いところでとってしまうというのは、わずかではありますがございますので、万円ですることによってそういうのが回避できるということもございます。

決定的なものとして、くじはやっぱり増えてしまうというのがございますが、それでもやはりある程度の状況を持った業者さんが参加していただいているので、その辺は能力的にある方を入札に参加していただいているというふうに考えますので、特に問題はないと考えております。

それで、4月1日からですが、万円止めのほうにさせていただくことによって、今回のような、3番とこの次の4番のようなことは生じにくくなるのではないかと。またこれではほんの1万円のずれとか言い始めると終わらなくなってしまうので、やはり最低制限のところはきっちりそのところで切っただいてというのでお願いしたいと思います。

【委員長】

今の案件に関連して端数処理についての補足の説明もいただいたんですけども、それも含めて、ございますでしょうか。

【委員】

やはり、1つは、誰しものが、ある程度、大体こういうものだったら普通にあるなと納得しやすい状態になると言ったらおかしいでしょうか。いわゆる入札監視委員会の役割としても、できるだけ適正ないわゆる入札のシステムというんですかね、仕組みというんですかね、そういったことは、つくる側じゃないんですけども、そういったことに関しても何か意見なり言わせていただいてもいいのかなというふうに思ったりもします。なので、やはり1つのやり方に固執するのではなく、このたびもこのように千円止めを万円止めに変更されるという工夫をしていただいていますので、今後もこういったいろんな工夫を重ねて、よりよい入札の仕組みというのをつくっていただくといいのかなというふうに思います。

【委員長】

それでは、この案件につきましては特に問題なしといたしますが、これに関連して、今、端数処理についての改善につきましても説明がありました。また、万円止めにした後の経過など、適宜、聞かせてもらえればと思います。

抽出事案 4 星見ヶ丘防災拠点施設市道拡幅工事

【委員長】

では、次に第4案件です。

星見ヶ丘防災拠点施設市道拡幅工事につきまして、発注担当課から工事概要の説明をしていただき、その後、事務局から発注公告の内容と入札経過についての説明をお願いします。

【担当課】

都市整備部土木課でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、資料の31ページ、工事概要書の4をごらんください。

工事名は、星見ヶ丘防災拠点施設市道拡幅工事でございます。予算額は2,001万6,000円、設計額は1,738万6,920円、工期は平成28年11月15日から平成29年3月30日までとなっております。当初は3月14日までの契約でしたけれども、地元調整のおくれからとかで3月30日までにしております。工事場所は、資料の32ページの位置図をごらんいただきたいのですが、この場所になります。

工事概要につきましては、もう一回、31ページに戻っていただきまして、星見ヶ丘におきまして、市民安全部がただいま防災拠点の施設整備を計画しておりまして、その一環で、本年度、防災拠点へ接続する市道部の拡幅を行う事業でございます。市民部さんから予算の執行委任を受けて実施しております。

整備内容としましては、市道に隣接する雨水調整池の敷地を活用しまして、現況の有効幅員が5メートルである市道を車道幅員7メートルに拡幅しますとともに、幅員3.5メートルの歩道を新設するものでございます。施工延長は83メートル、道路土工一式、舗装工、車道舗装と歩道舗装を合わせまして766平米です。コンクリートブロック積工181平方メートル、排水構造物工、これは道路の側溝及び集水ますなどでございます、一式、防護柵工77メートル、区画線工一式、構造物撤去工一式となっております。工法をお示ししておらんののですが、位地図のところで、調整池の法面の部分まで工事範囲にかかっておりますけれども、この調整池の中にコンクリートブロック積工高さ2メートルから3メートルぐらいのものを立ち上げまして、市道の幅員を広げると、こういった内容の工事になります。

ご説明は以上でございます。

【事務局】

続きまして、発注公告及び入札経過について説明させていただきます。資料の33ページをお願いいたします。

入札方法は事後審査型条件付一般競争入札です。入札参加資格要件としまして、土木工事業の許可業者であること、所在地要件は市内としております。経審点数につきましては510点以上としております。発注業種の完成工事高が予定価格の2分の1以上であることを求めています。また、同種工事施工実績として、平成18年以降、官公庁が発注した案件で、土木一式工事、受注形態、元請単独の施工実績を有すること、技術者要件としまして、2級土木施工管理技士（土木）または2級建設機械施工技士以上と現場代理人の配置を求めています。以上の要件をもって公告をいたしました。

続きまして、入札の経過及び結果についてです。34ページをごらんください。

平成28年11月2日に入札を行いましたところ、9者から応札があり、開札の結果、最低制限価格を割り込んだ業者が8者ございまして、残った1者が最低制限価格以上、予定価格以下であったため、株式会社藤井建設を落札候補者としてしました。その後、事後審査を行った結果、適格であったため、当該事業者を落札者に決定し、税抜き1,600万円で契約を締結いたしました。

以上でございます。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

【委員長】

では、ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等がございましたら、お伺いしたいと思います。

【委員】

先ほども議論にありましたが、これについても1,000円ぐらい低かったので多くの業者が失格になって、それよりも非常に高い業者が落札したというケースで、これの特異性は、1,000円下が

ったところで全部がそろっているというところはどう分析されているのでしょうか。

【担当課】

土木課です。

この工事に関しましては、採用されておる工種というのが非常に標準的な工種のものばかりということで、施工単価、また、資材単価なんかも県が公表しています単価を使用しているということで、業者のほうでシステムなどを持っておられると思うんですけれども、積算が容易であったということで8者が同じ金額で、最低制限価格ぎりぎりを狙いにいった業者さんというんですかね、見積もりをされた業者さんが同額で並んでしまったのかなというふうに推測しておるところです。

あと1者だけが非常に高いですけれども、こちらはこういった理由でこの額になったかは、私ども、推測できないところはあります。

【委員】

そうすると、こういうケースが今後万止めにした場合になくなるかということなんですけど、例えば、市のほうで持っているシステムで、例えば、今回と同じ9,000円の価格が出た場合は、繰り上げて出すんですか。繰り下げで出すのか繰り上げて出すのか、その辺はわかりません。答えられないかもしれないけど、何かシステムが変わらなければ、1,000円差が1万円差になるだけで、似たようなことが起きるような気がするんですけど、そうでもない。

【事務局】

まず、制度的には全て切り捨てという形になります。9,000円でも切り捨てます。ですので、今回の場合ですと最低制限価格に並びますが、もし、これが最低制限価格、上に1,000円高くて、比較された方も1,000円上でしたら、そういう考え方ですと、確かに落ちることはあり得ます。ですが、今回、こうやってきれいに並んでいる理由の1つでもある、これが土木の関係の工事で、おそらく積算ソフトが使われていると思われるんですが、そのときに、先ほども説明しましたように、大体2択から4択で出てくるようになっております。それで、おそらくは同じようなソフトが使われていて、確率の、例えば95%でこちらとか、それで出たのはおそらく末尾8,000円のほうではないかと思われます。それで、9,000円のほうが確率的に非常に低かったというのでこのような結果になったのではないかと思います。これがもし万円止めになった場合、この辺もメーカーさんのほうに確認しましたところ、聞いたところの1者のところは、その辺、答えていただけまして、選択肢が非常に減ることになりますので、ほぼ1択に近くなるぐらいの精度で出せるというふうには言っておりました。もちろん、先ほど言ったみたいに、工事の内容によっては特殊な知識が必要なので、100%が毎回出るわけではございませんが、今回みたいに、もし2択で悩むとかいうのがあったら、それはなくなる可能性は高いと思われます。

【委員長】

逆に言うと、万円止めにすると、ソフトを使うほうの側が万円単位で収束されてくるから、そろう可能性は多くなるのかな。

【事務局】

そうですね。くじ引きはやはり、三重県とかも、実際万円止めなので、聞きますと、くじ引きばかりになってしまうというようなことは言っておりました。土木なんかは、ほぼくじ引きだというような形で言っておりますし、桑名の建築業の協会さんの代表さんとかのあたりにも伺いますと、やっぱりこういったソフトを使っていないところのほうは、そんなところはあるかなぐらいな感じで、よく利用されているそうなので、やはりこういう万円止めにすることによって、皆さん、同じような数字を出してこれられるという可能性はやはりあると思いますので、そこのところはまた来年度、見ていきながら、何かほかの市町、県とかも含めて、いいのがさらに見つければ、またかえることも検討しまして、いこうかなとは思っております。

【委員】

業者さんにとっては大変なことかもしれないんですけども、こうやって並んだあげくに、トンビに

油揚げ状態のような、1 者が持っていったしまったということよりは、大変かもしれませんが、くじ引きのほうが、その意味では、いわゆる入札ということから見ると、絶対的にいいかどうかはともかくとして、いわゆる公平性が保たれているという 1 つの証明になるのかなというふうに思ったりもします。

【委員長】

これは応札側の話なので、お伺いしても見当違いなのかも知れません。逆に、だめもとで、予定価格に近いところで出しちゃおうという話も結構あるんですか。あまり、まず私は意識したことがなかったので、どうなんですか。

【事務局】

業者さんの傾向を見ておきますと、2 パターンございまして、常に高い金額を入れてくる、それこそ大穴狙いというか、みんな、落ちたらもうよというのをされているのをよく見かける業者さんと、工事に結構幾つか落札されて、手はあいていないこともないけど、高ければやるよみたいな感じで、急に上にされる業者さんと、大体この 2 パターンあると思います。

【委員長】

ほかにはございせんか。

それでは、この案件につきましては、特に問題なしといたします。

抽出事案 5 三崎跨線橋橋梁点検業務委託（近鉄・三岐軌道部）

【委員長】

では、最後の案件です。第 5 案件、三崎跨線橋橋梁点検業務委託（近鉄・三岐軌道部）について発注担当課から委託概要の説明をしていただき、その後、事務局から発注公告の内容と入札経過について説明をお願いいたします。

【担当課】

都市整備部土木課でございます。

引き続き、35 ページの委託概要書 5 をお願いいたします。

業務委託名は三崎跨線橋橋梁点検業務委託（近鉄・三岐軌道部）でございます。予算額は 3,000 万円、設計額は 1,269 万 2,160 円でございます。予算額につきましては、三崎跨線橋の JR の部分の点検委託とか、東名阪の跨道橋の点検業務の予算も含んでおるということで、予算額と設計額に差額がございます。履行期間は平成 28 年 9 月 27 日から平成 29 年 2 月 28 日まででございます。業務委託の箇所につきましては、36 ページをごらんください。点検箇所、これは近鉄と JR、三岐鉄道北勢線という順に線路が並んでおりまして、JR を挟んで両側にあります近鉄と三岐鉄道の点検をこの業務委託において実施するものでございます。

概要に戻っていただきまして。業務概要でございます。近鉄、三岐軌道部の点検足場工一式、高所作業車点検工一式、現地踏査一式、関係機関協議・打合せ一式、点検調書作成一式というふうになっております。

業務の内容につきましては、資料の 37 ページから 40 ページまででございます。まず、37 ページにつきましては上段が平面図ということで、これは線路方向に見まして、長さが 14 メーター 30 センチで、幅が全体で 12 メートル 58.3 センチという幅に関しまして、1 スパンを 3 メーター 10 から 3 メーター 20 の幅で、電車がとまってから早朝までの夜中に 4 スパンに分けて順次足場を組みながら移動して 4 日間点検を実施するというものでございます。

続きまして、38 ページを見ていただきますと、これが橋の側面の作業をするときの施工図というんですか、計画図でございます。上段が線路方向に見て正面から見た図と、これは道路方向から見た図面というものになっております。

同じく 39 ページにつきましては、三岐鉄道の部分の点検計画図になっておりまして、上段が線路方向に見た平面図で、これも同じく長さが 14 メーター 30 センチ、こちらは幅を 2 メーター 60 から 3

メーターという幅で、3 スパンに分けまして3日間かけて全体8メーター20の幅の点検を行うものです。

40ページにつきましては、同じく橋の側面に関して作業車を使って点検する作業図ということになっております。こういった作業というのは、近接の目視、人間の目で直接近くまで行って見なければならぬということで、鉄道の敷地に入って、足場を組んで、橋のすぐ近くまで行って見なければならぬということで、鉄道事業者さんの土地を借りてやらなければならないということで、点検を実施する、発注以前に鉄道事業者さんと作業について協議を事前に行いまして、鉄道事業者さんからいただいた条件のもとに、例えば監督員の資格や作業方法について、業務委託で明記して発注させていただいたところでございます。

説明は以上でございます。

【事務局】

それでは、続きまして、発注公告及び入札経過について説明させていただきます。資料の41ページをごらんください。

入札方法は、事後審査型条件付一般競争入札です。入札参加資格要件につきましては、鋼構造及びコンクリート部門の建設コンサルタント登録規程の登録業者であること、所在地要件は県内外全てを認めております。技術者要件としまして、建設部門、鋼構造及びコンクリート、または総合技術監理部門、同じく建設、鋼構造及びコンクリートの管理技術者及び照査技術者を配置すること、その他の技術者として、軌道内に立ち入り点検、調査等を実施する際に、近畿日本鉄道株式会社に元請現場監督者認定証の交付を受けた者を求めています。また同種業務施工実績として、平成28年度以降、官公庁が発注した案件で、橋梁点検業務、受注形態、元請単独の実績を有することを求めています。以上の要件をもって公告をいたしました。

続きまして、入札の経過及び結果についてです。資料の42ページをごらんください。

平成28年9月14日に入札を行いましたところ、1者から応札があり、開札の結果、最低制限価格以上、予定価格以内であったため、全日本コンサルタント株式会社中部支店を落札候補者としてしました。その後、事後審査を行った結果、適格であったため、当該事業者を落札者に決定し、税抜き1,110万円で契約を締結いたしました。

以上となります。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

【委員長】

それでは、ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見がございましたら、お願いいたします。

【委員】

これは、一旦、この部分に関しては、近鉄さんの部分に関してということになっているんですけれども、JRさんを別で分けられたというのは何か理由があるんですか。

【担当課】

それぞれ近鉄さん、JRさん、三岐鉄道さんと、別々で協議をしておるんですけれども、近鉄さんと三岐鉄道さんに関しては同じ条件というんですかね、三岐鉄道さんも近鉄さんが指定する同条件で施工していただいたら結構ですということで、今回1本の業務委託で発注しています。JRさんにつきましては、独自に監督員さんというのをまた別で指定してみえまして、協議における条件というんですか、近鉄さんと全く異なりまして、同じ条件と一緒に発注すると受注できる条件の業者さんが全くいなくなるということで分けさせていただいています。

【委員】

ありがとうございました。

一応、所在地は問わず募集をかけられて、応札できる建設コンサルタントというのはそんなに多くないんですか。どうなんですか。

【担当課】

近鉄さんに事前に協議の際に落札可能な業者がみえるのかというふうに調査というんですか、お聞き

をさせていただいたんですけれども、東海地方、名古屋とか三重県とかで2者ぐらいしかいないと。さらに範囲を広げて大阪とか京都とか、あちらのほうも含めると5、6者になるというふうにお聞きしております。

【委員】

多分すごく特殊な技術がないとできないお仕事なのかなというふうに思ったりもしますが、こういった跨線橋の点検というのはどれぐらいの期間ごとにされる工事なんですか。

【担当課】

これは、道路法で点検というのが義務づけされておるんですけれども、今5年に1回のサイクルで点検しなければならないというふうになっております。

【委員】

点検が必要な跨線橋に類するものというのは、桑名市内にどれぐらい、何カ所ぐらいありますか。

【担当課】

跨線橋は、今、三崎跨線橋と、市道にかけてですけれども、最近、供用を開始しました蛸塚益生線に東方跨線橋というのがあるんですけれども、この2橋だけです。

【委員】

ありがとうございました。

【委員長】

ほか、いかがですか。

【委員】

点検というのはこんなにするのかという印象なんですけど、今回は線路上の橋の点検だからこのぐらいかかって、業者もいないという判断でいいんですか。普通の河川上の橋梁だと、ここまでいかないんですか。

【担当課】

やはり下が線路であつたりとか高速道路であつたりと、こういったところに関しては、特別な技術者を配置したりとか、この跨線橋の場合ですと、足場を組んで、足場の上から点検をしなければならないということで、足場の費用も非常に高くなってきますので、高価なものになってきます。橋の長さとか高さとか、そういった要件によって変わってくるんですけれども、大変短い単純な橋梁でしたら職員で直営でやっておるような橋梁もございますし、通常、特に普通の川にかかっているような橋で業務委託する場合の単価は、この跨線橋に比べたらはるかに安い値段でできるかなと思います。

【委員長】

ほか、いかがでしょうか。

要件の中だと、どうなのでしょう、近畿日本鉄道元請現場監督者認定証の交付を受けているというところが一番厳しいんでしょうかね、と思っていいますか。

【担当課】

そうですね。この要件というんですか、先ほど何者ぐらいかというお話がありましたけれども、この要件によって大阪とか京都とかを入れても5、6者ぐらいしかならないということですね。

【委員長】

ほか、いかがでしょうか。

それでは、この案件につきましては特に問題ないということにいたしたいと思います。

それでは、以上をもちまして抽出事案の審議を終了いたしましたので、発注担当課様はここでご退席をお願いします。どうもありがとうございました。

(工事担当課 退出)

【委員長】

次回の審議案件の抽出については、名簿順にやりますと赤木委員なんですけれども、本日ご欠席でございますので、事務局のほうより赤木委員のほうにはご連絡をお願いいたします。

(3) その他

【委員長】

次の(3) その他ですが、何かございますか。事務局のほうからは。

【事務局】

万円止めの話も考えていましたけど、先ほども議論の中でその話も出ていまして、事務局のほうも説明もさせていただいたということで、特段、今はありません。

以上でございます。

【委員長】

それでは、これで平成28年度第3回の桑名市入札監視委員会を終了させていただきたいと思います。

なお、本日の審議概要は、後日、事務局でまとめていただきたいと思います。今日はどうもお忙しいところ、ありがとうございました。